

青森県経済統計報告

平成16年 1月30日

企画振興部統計情報課

1 青森県の推計人口（平成16年1月1日現在） 1

県人口	1,459,478人	(対前月 415人減少、対前年同月 7,569人減少)
自然動態	248人減少	(出生者数 896人、死亡者数 1,144人)
社会動態	167人減少	(転入者数 1,364人、転出者数 1,531人)

2 本県の経済動向

(1) 経済概況

本県経済の動向をみると、鉱工業生産指数、個人消費や住宅建設等各指標においていずれも前年同月を下回り、厳しい雇用情勢も回復の動きが見られず、なお厳しい状況が続いている。

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産 平成15年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が82.6で、前月比2.8%の低下(2ヶ月ぶり)、また、原指数が85.7で、前年同月比8.2%の低下(2ヶ月ぶり)となった。

〔化学工業を除いた指数では、季節調整済指数が83.9で、前月比3.5%の低下(3ヶ月ぶり)、原指数が89.3で、前年同月比6.0%の低下(2ヶ月ぶり)となった。〕

(2-2) 雇用情勢 平成15年11月の現金給与総額は237,032円で前年同月比2.1%減となった。このうち、定期給与は229,350円で1.2%減となっている。総実労働時間では、157.7時間で前年同月比2.6%減となり、所定外労働時間では8.2時間で対前年同月比9.9%減となっている。

(2-3) 物価 平成15年12月の青森県消費者物価指数は、総合指数で99.4となり、前月比0.2%増となり、2ヶ月ぶりに前月を上回った。

(2-4) 個人消費 平成15年11月の大型小売店売上高は、全店舗ベースで前年同月比7.8%減の151億3千9百万円となり、既存店ベースでも前年同月比5.4%減といずれもマイナスとなった。平成15年11月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,512台で、前年同月比15.1%の減となり、3ヶ月ぶりに前年を下回った。

(2-5) 住宅建設 平成15年11月の新設住宅着工戸数は760戸で、分譲住宅が増加したが、持家、貸家等の減少により前年同月比24.6%減となり、10ヶ月連続前年を下回った。

(3) 景気動向指数（平成15年11月分） 7

先行指数	66.7%	(2か月連続で50%を上回った)
一致指数	87.5%	(前月50%の後、50%を上回った)
遅行指数	0.0%	(6か月連続で50%を下回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成16年1月分） 8

3ヵ月前と比べた景気の現状判断DI	47.9	(前期比4.3ポイント増、11期連続50を下回る)
3ヵ月後の景気の先行き判断DI	46.8	(前期比1.9ポイント増、11期連続50を下回る)

1 青森県の推計人口（平成16年1月1日現在）

【概況】

平成16年1月1日現在の本県推計人口は、1,459,478人で、前月に比べ415人、前年同月に比べると7,569人それぞれ減少となった。

○自然動態

出生者数が896人、死亡者数が1,144人で、248人の減少となった。

12月中の統計としては、出生者数が過去（昭和41年以降。）最少となった。

○社会動態

転入者数が1,364人、転出者数が1,531人で、167人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	対前月増減率		増減数	自然増減数	社会増減数		出生者数	死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女									
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-	-
15.1.1	1,467,047	697,500	769,547	-0.034%	-506	-264	898	1,162	-242	1,370	1,612	
15.2.1	1,466,409	697,059	769,350	-0.043%	-638	-435	1,048	1,483	-203	1,460	1,663	
15.3.1	1,465,541	696,605	768,936	-0.059%	-868	-366	904	1,270	-502	1,374	1,876	
15.4.1	1,459,568	693,152	766,416	-0.408%	-5,973	-353	909	1,262	-5,620	4,746	10,366	
15.5.1	1,460,756	693,883	766,873	0.081%	1,188	-173	992	1,165	1,361	5,161	3,800	
15.6.1	1,460,557	693,699	766,858	-0.014%	-199	-165	999	1,164	-34	1,815	1,849	
15.7.1	1,460,426	693,599	766,827	-0.009%	-131	-53	992	1,045	-78	1,559	1,637	
15.8.1	1,460,013	693,336	766,677	-0.028%	-413	-49	1,069	1,118	-364	2,089	2,453	
15.9.1	1,460,389	693,613	766,776	0.026%	376	-75	1,000	1,075	451	2,639	2,188	
15.10.1	1,460,050	693,437	766,613	-0.023%	-339	-99	1,040	1,139	-240	1,842	2,082	
15.11.1	1,460,172	693,492	766,680	0.008%	122	-53	1,037	1,090	175	2,165	1,990	
15.12.1	1,459,893	693,300	766,593	-0.019%	-279	-205	870	1,075	-74	1,368	1,442	
16.1.1	1,459,478	693,077	766,401	-0.028%	-415	-248	896	1,144	-167	1,364	1,531	

12月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月	平6.12	7.12	8.12	9.12	10.12	11.12	12.12	13.12	14.12	15.12
自然動態	出生者数	1,134	1,090	1,120	1,060	1,053	1,000	1,015	976	898
	死亡者数	1,023	958	1,116	994	1,048	1,089	1,065	1,192	1,144
	自然増減数	111	132	4	66	5	-89	-50	-216	-264
社会動態	県外からの転入者数	1,659	1,578	1,497	1,445	1,554	1,309	1,433	1,497	1,370
	県外への転出者数	1,205	1,215	1,439	1,272	1,495	1,261	1,385	1,370	1,612
	社会増減数	454	363	58	173	59	48	48	127	-242

※1 平成2、7、12年は国勢調査による数値。

※2 平成15年1月1日から平成16年1月1日までの人口は平成12年国勢調査人口（確定値）を基礎に推計している。

※3 増加数は、平成2、7、12年が前回、その他が前月に対するものである。

※4 算出方法 県の人口＝自然増減数（出生－死亡）＋社会増減数（県外転入－県外転出）

※5 これまで社会動態の算定には、県間移動数に加え県内市町村間移動数を含めていたが、県間移動数に修正を行った為、過去の公表数値と異なっている。

※6 県の人口には、県内市町村間の移動者数を含んでいない為、各市町村の推計人口の総数とは一致しない。

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成15年11月の青森県鉱工業生産指数(平成12年=100)は、季節調整済指数が82.6で、前月比2.8%の低下となり、2ヶ月ぶりに前月を下回った。また、原指数は85.7で、前年同月比8.2%の低下となり、2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

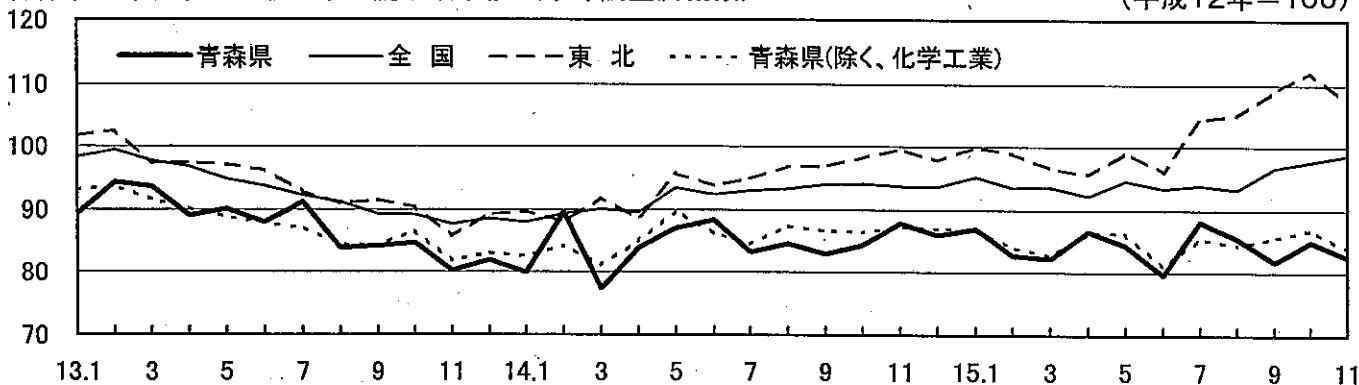
季節調整済指数で前月からの動きをみると、金属製品工業、その他製品工業、プラスチック製品工業などが上昇に寄与した一方、食料品工業、化学工業、一般機械工業などが低下し、鉱工業全体では2.8%の低下となった。

(化学工業を除いた指数について)

季節調整済指数が83.9で、前月比3.5%の低下(3ヶ月ぶり)、原指数が89.3で、前年同月比6.0%の低下(2ヶ月ぶり)となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成12年=100)

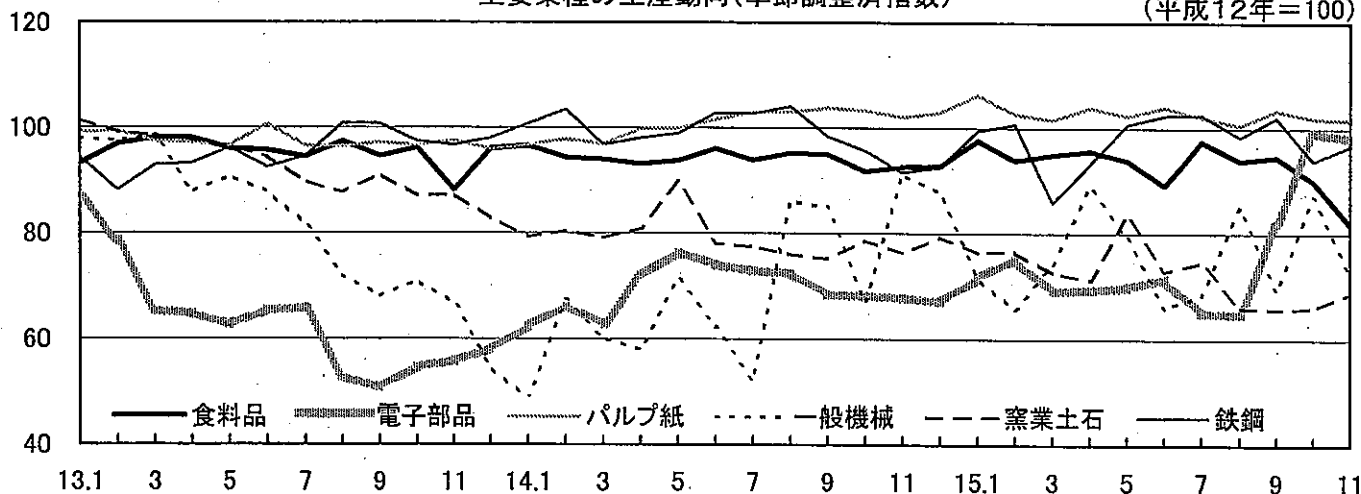


◎業種別動向(前月比)

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
(鉱工業)				-2.8	-100.0
金属製品工業	18.4	8.9	食料品工業	-9.2	-44.0
その他製品工業	24.6	4.2	化学工業	-52.8	-30.3
プラスチック製品工業	11.9	4.1	一般機械工業	-16.9	-18.1
窯業・土石製品工業	4.4	3.4	電気機械工業	-15.2	-17.6
鉄鋼業	3.2	3.2	繊維工業	-5.4	-4.2

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成12年=100)

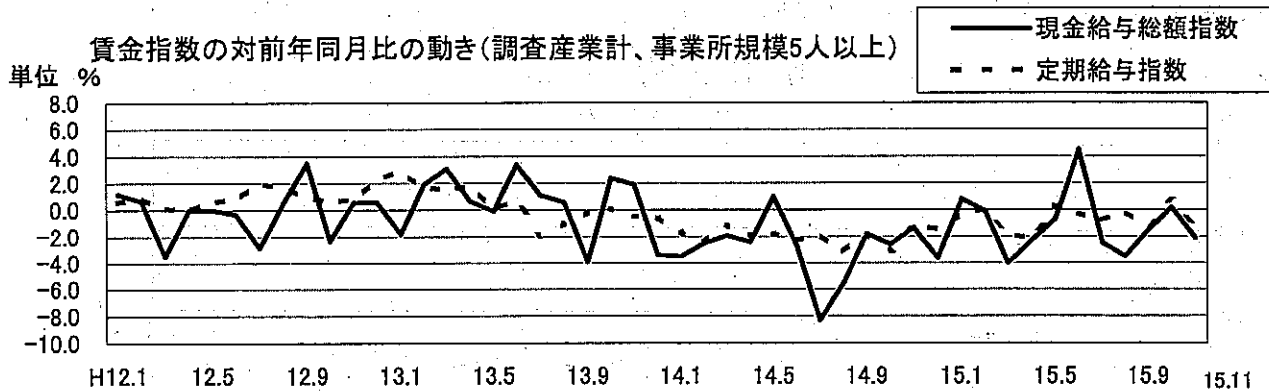


資料: 県統計情報課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2)雇用情勢

平成15年11月の現金給与総額は237,032円で現金給与総額指数（平成12年=100）では82.6となり、前年同月比2.1%減となった。このうち、定期給与は229,350円で定期給与指数では97.1となり、前年同月比1.2%減となった。実額で比較した定期給与の全国対比は80.8となった。

所定外労働時間は8.2時間で、所定外労働時間指数では95.3となり、前年同月比9.9%減となった。



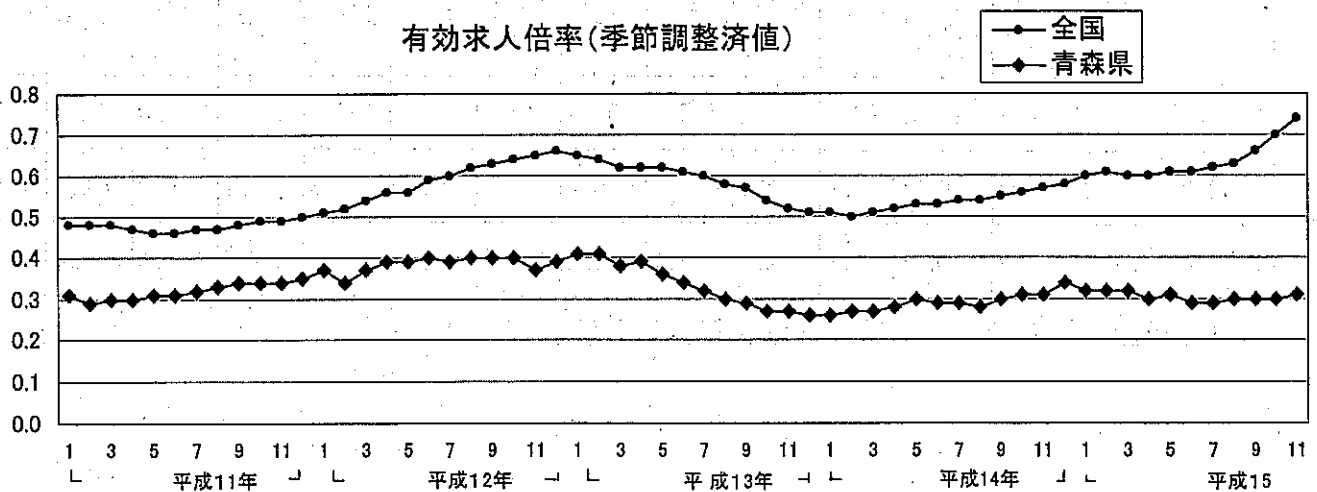
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(H12=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	237,032 円	293,200 円	82.6	82.5	-2.1 %	0.0 %
定期給与	229,350 円	280,315 円	97.1	98.7	-1.2 %	-0.3 %
特別給与	7,682 円	12,885 円	—	—	—	—
総実労働時間	157.7 時間	153.7 時間	99.4	99.4	-2.6 %	-2.3 %
所定内労働時間	149.5 時間	143.2 時間	99.6	99.0	-2.3 %	-2.7 %
所定外労働時間	8.2 時間	10.5 時間	95.3	106.1	-9.9 %	4.0 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。2.前年同月比は指数によって算出している。

資料:県統計情報課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

有効求人倍率(季節調整済値)



資料:青森労働局職業安定部職業安定課

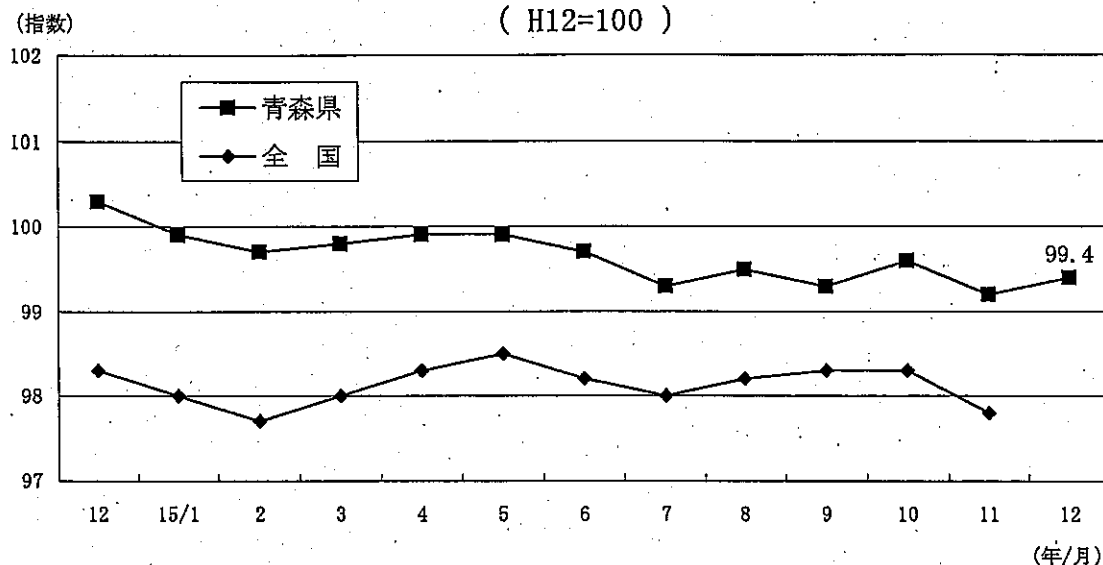
(2-3) 物価

平成15年12月の青森県消費者物価指数は、平成12年を100とした総合指数で99.4となり前月比0.2%増、前年同月比0.9%減となった。

前月指数と比較すると、「食料」は生鮮野菜（レタス、きゅうり等）、「教養娯楽」は教養娯楽サービス（外国パック旅行等）の値上り等により上昇した。

「家具・家事用品」は室内装備品（カーペット、カーテン等）、「被服及び履き物」は冬物の衣料等の値下り等により下落した。

月別総合指数
(H12=100)



10大費目別指数の動き

(平成12年=100)

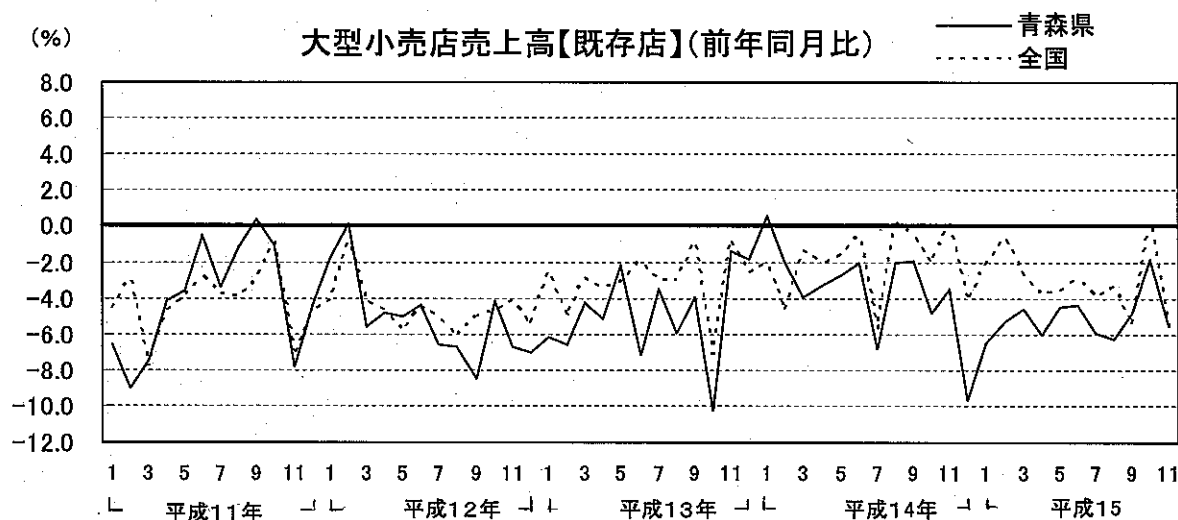
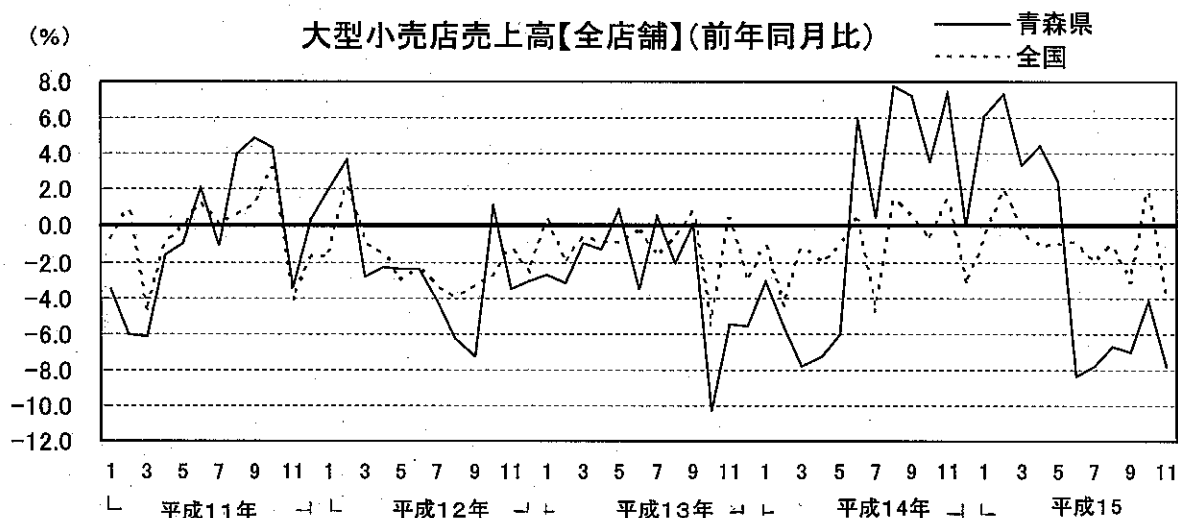
	総合	総合 (持ち家の 借家賃を 除く)	総合 (生鮮 食品を 除く)	食料	生鮮 食品	住居	光熱・ 水道	家具 ・家事 用品	被服 及び 履き物	保健 医療	交通・ 通信	教育	教養 娯楽	諸雑費
当月指数	99.4	98.2	99.9	99.1	90.4	105.2	99.7	91.9	98.7	107.8	96.8	100.3	90.4	103.4
前月比	0.2	0.3	0.0	0.9	6.1	0.1	0.0	▲ 1.8	▲ 0.3	0.3	0.1	0.0	0.4	▲ 0.1
前年同月比	▲ 0.9	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 1.4	▲ 8.9	▲ 1.1	1.4	▲ 2.5	▲ 1.7	3.4	▲ 0.4	▲ 4.6	▲ 2.3	3.8

資料：県統計情報課「青森県消費者物価指数月報」(速報)

(2-4) 個人消費

平成15年11月の大型小売店売上高は、全店舗ベースで前年同月比7.8%減の151億3千9百万円となり、既存店ベースでも前年同月比5.4%減と6ヶ月連続全店舗ベース、既存店ベースのいずれにおいてもマイナスとなった。内訳をみると、百貨店の既存店ベースで身の回り品、家具・家電・家庭用品、スーパーの全店舗ベースで飲食料品がプラスになったものの、その他の部門において百貨店、スーパーとも前年を下回った。

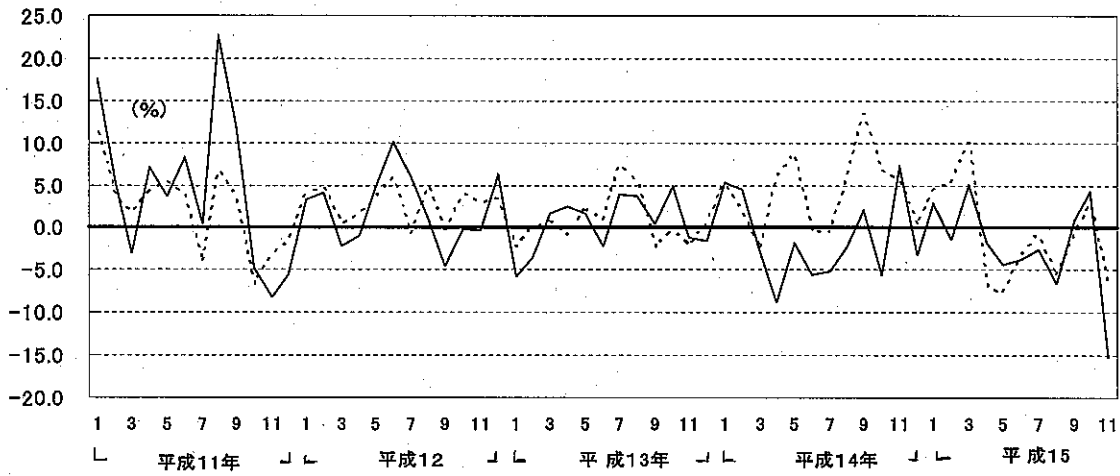
平成15年11月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,512台で、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車のいずれも減少し、前年同月比15.1%減となり、3ヶ月ぶりに前年を下回った。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

- * 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

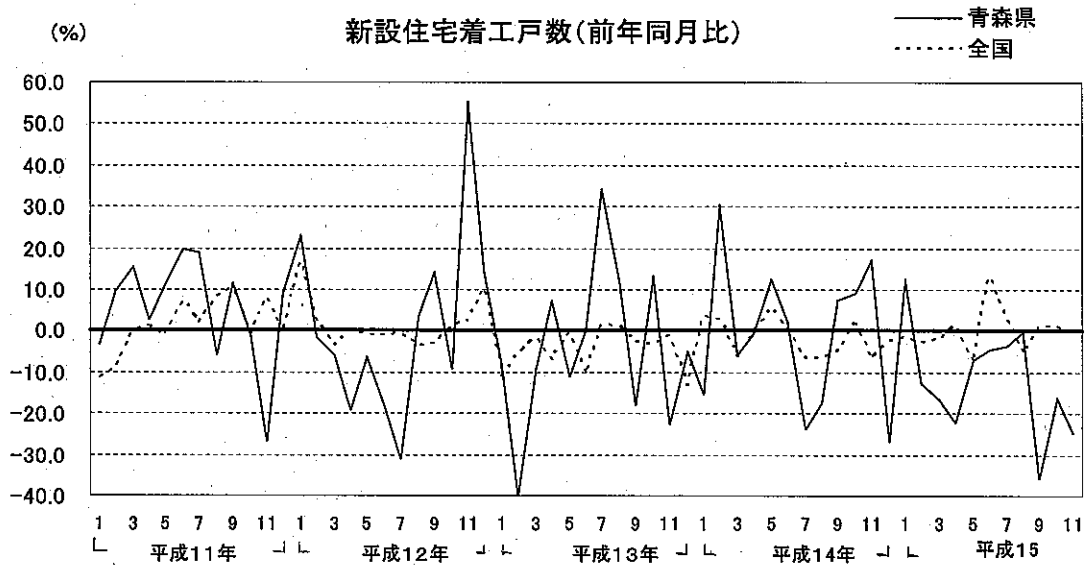
乗用車(軽を含む)新車登録・届出台数(前年同月比)



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、
日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

平成 15 年 11 月の県内新設住宅着工戸数は 760 戸で、分譲住宅が増加したが、持家、貸家等の減少により前年同月比 24.6%減となり、10 ヶ月連続前年を下回った。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(3) 青森県景気動向指数

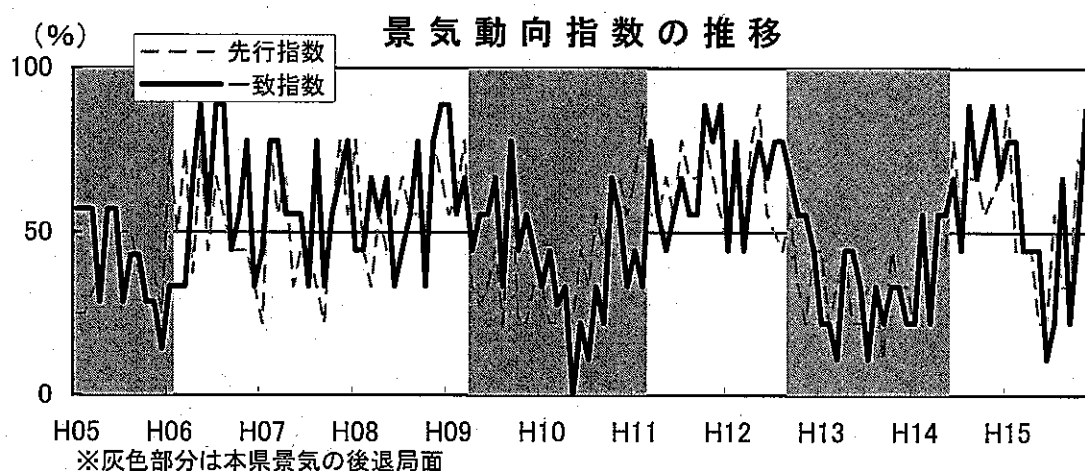
平成15年11月の青森県景気動向指数は、先行指数66.7%、一致指数87.5%、遅行指数0.0%となった。

先行指数は、2か月連続で50%を上回った。

一致指数は、前月50%の後、50%を上回った。

遅行指数は、6か月連続で50%を下回った。

11月の一致指数は、生産関連の指標等がプラスとなったことから、50%を上回った。



●個別系列の動き (各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています)

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列 (9指標中6指標がプラス)			
生産財生産指数	3か月連続	新設住宅着工戸数	3か月連続
所定外労働時間指数 (全産業)	3か月連続	中小企業景況DI	前月保合
新規求人数 (常用)	2か月連続	乗用車新車登録届出台数	3か月ぶり
企業倒産負債額	2か月連続		
入職率 (製造業)	2か月連続		
建築着工床面積 (鉱+商+サ)	7か月ぶり		
一致系列 (8指標中7指標がプラス) ※			
電気機械生産指数	4か月連続	雇用保険基本手当初回受給者数	2か月ぶり
有効求人数 (常用)	2か月連続		
鉱工業生産指数	2か月連続		
日銀券月中発行高	2か月ぶり		
大口電力使用量	3か月ぶり		
海上出入貨物量 (八戸港)	3か月ぶり		
大型小売店販売額 (実質)	6か月ぶり		
遅行系列 (7指標中7指標がマイナス)			
		信用保証申込金額	6か月連続
		常用雇用指数 (製造業)	5か月連続
		輸入通関実績 (八戸港)	4か月連続
		1人平均月間現金給与総額	3か月連続
		勤労者世帯家計消費支出 (実質)	2か月連続
		単位労働コスト (製造業)	2か月連続
		消費者物価指数 (帰属家賃除く総)	2か月ぶり

※一致系列の東北自動車道IC利用台数については、青森中央IC、青森東ICの開通による影響が大きいため、当面の間、判定に用いないこととする。

資料：県統計情報課「青森県景気動向指数月報」

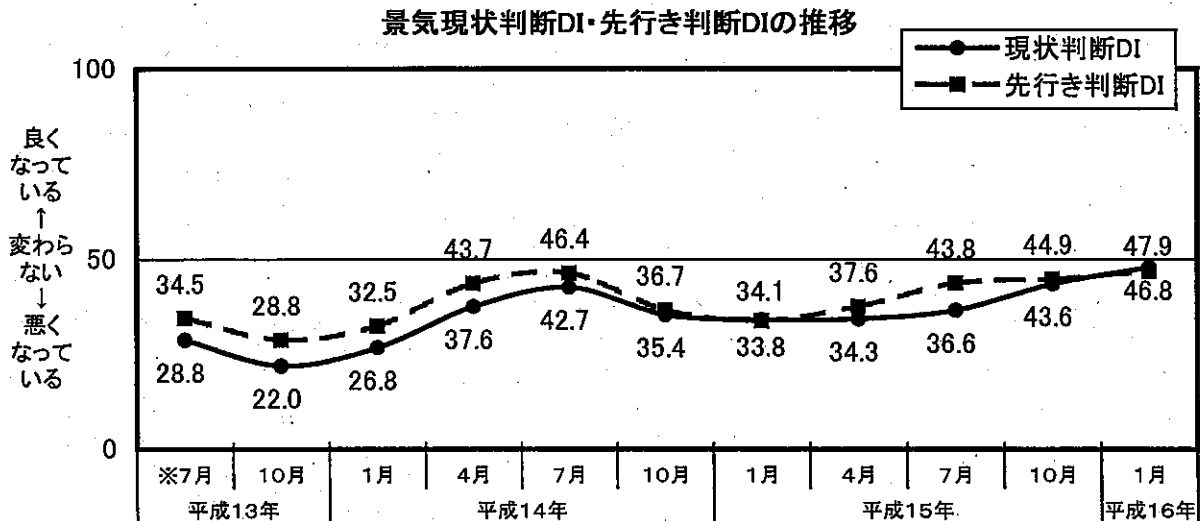
(4) 青森県景気ウォッチャー調査

平成16年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月5日～1月23日を調査期間とし、回答率95%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは47.9で、前期調査より4.3ポイント増加した。

3か月後の景気の先行き判断DIは46.8で、前期調査より1.9ポイント増加した。

1月期は、現状判断DI、先行き判断DIとも4期連続してポイントが増加したものの、横ばいを示す50を依然として下回っている。



※平成13年7月は試行調査

● 3か月前と比べた景気の現状判断

動	<p>前期調査と比べると、「良くなっている」、「やや良くなっている」が増加し、「やや悪くなっている」が減少したことにより、4.3ポイント増の47.9となったものの、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由をみると、一部には景気の上向き感や売上の増加傾向が見られるという声があるものの、依然として失業が多いこと、また、客単価の低下等が挙げられていた。</p>
向	<p>東青、津軽、県南地区では、ポイントが増加したものの、下北地区では大きくポイントが低下した。前期調査に比べて、下北以外の地区では「やや良くなっている」が増加したものの、下北地区では「やや悪くなっている」、「悪くなっている」が増加している。</p>

● 3か月後の景気の先行き判断

動	<p>前期調査と比べると、「やや良くなっている」が増加し、「やや悪くなっている」が減少したことにより、1.9ポイント増の46.8となったものの、引き続き横ばいを示す50を下回った。判断理由を見ると、大企業の収益回復や新年度を向かえて人の動きが活発になると見込まれるものの、増税や県の投資的経費の削減が地元経済への影響が懸念されること等が挙げられていた。</p>
向	<p>前期調査に比べて、東青、県南地区では「やや良くなっている」が増加し「やや悪くなっている」が減少したことからポイントが増加したものの、津軽、下北地区では「やや良くなっている」が減少し「やや悪くなっている」が増加したことからポイントが低下した。なお、津軽、県南地区では、横ばいを示す50を上回った。</p>

資料：県統計情報課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- 販売価格が低迷状態にあったが、値戻しされつつあるため。(卸売業=津軽)
- 経営効率化への取組み、人件費等経費削減の効果が始まっている。売上に結びついているかは別として、年末商戦時の人出を見ると、一頃の不況を払拭した感じがする。忘年会シーズンも久々に活況であったと聞いている。(人材派遣=東青)
- 東京とかの大都市では少し上向きになっているようだが、地方は変わっていない。むしろ、不安に思っている人の方が多いのでは。(観光名所等=東青)
- 雇用・就職・年金の問題、公共工事の削減、民間企業の設備投資の抑制等、構造的要因が解消されなければ景気は良くならないと思われる。(パチンコ=県南)
- 予想以上に年末・年始の営業回数は増えず、売上伸びず、厳しい04年のスタートです。雪も少なく、冬期の仕事だと非常に厳しい業者の苦情が聞こえてきます。(タクシー=下北)
- △ 宿泊料金が、これまでになく最低になっています。飲み物も持ち込みが多く、館内利用があまりないので、売上にならない状態です。(観光型ホテル・旅館=東青)
- △ 賞与の手取額が、社会保険負担増により、減っているという声が多く、消費に回す額が少なくなっていると思われる。(一般小売店=津軽)
- × 来店するお客さんの客単価が下がっている。「リストラにあった」、「仕事がない」などと来客が言っている。(コンビニ=下北)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 来店する顧客情報等から、がんばっている企業も多く、銀行等でも、企業支援の資金融資等、新しい商品販売が目立ってきている。(コンビニ=東青)
- 雪が少ないせいもあるが、お客様の動きが例年より早いので、3月決算へ向けて希望的観測から。(自動車販売=県南)
- 株価の上昇等一部では明るい材料があり、一般的な景況感は良くなっていると思うが、所得額の低下や、実質的な増税等、家計を圧迫する材料が消費に影響を及ぼす。(百貨店=東青)
- 春と共に良くなりそうなものだが、BSEや鳥インフルエンザの影響で、また下降気味。(スーパー=県南)
- 急激な円高が輸出産業に及ぼす影響が懸念されるが、内需の景気循環的なプラスもあり、全体としては現況を維持するものと思われる。(紙・パルプ製造=県南)
- △ 年末年始の当商店街の状況及び県内の景気情報等において、冬期間は特に観光客の流入もない事から、むしろ後退しているのではないかと思われる。(商店街=津軽)
- △ 土木業従事しているお客様からは良い話は全く聞こえてきません。「仕事が無い」その一言ばかりです。雇用関係も厳しい状況です。全体の所得が増加していかないと景気は良くなるはずがありません。(一般小売店=下北)
- × 官民で利用するチケットでの乗車回数の激減。土木建設業種の利用が特に目立つ。医療費負担増による通院に使われる回数の減も目立つ。労働環境、賃金体系、年金政策等による”ゆとり”が無くなり、出費が極力抑えられている。(タクシー=東青)

記号の意味: ◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料: 県統計情報課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」